

「国語の特質」を語る国語教師のための「日本語概説」を目指して

国語教育講座・佐藤栄作

### 1. 授業の基本情報・概要

学校教育教員養成課程の「日本語概説」は、キャップ制への対応から、一昨年度より1年前期から2年後期へ移動した。2年前期に「初等国語」があるため、2年後期の「日本語概説」を「日本語学入門」とはしづらく、「国語教師のための日本語学」への変更の必要性を昨年度の本報告書で書いた。

ところが、今年度まで3年続いた1年後期の全学必修科目「日本語リテラシー入門」が次年度から「科学技術リテラシー」に変更されることになったので、次年度入学生から、「日本語概説」は「日本学入門」として入学直後の1年前期に戻すことにした。言い訳がましいが、また元へ戻すことを決めたこともあり、本年度、大幅な内容変更を実施しなかった。もちろん必修科目としての位置づけにふさわしい内容であることは動かさない。

### 2. 授業評価の内容

DP対応の学生授業評価アンケートの結果を、昨年度と本年度で比較する。大きな反省として、授業評価アンケートを実施する時間を授業時間内で確保しなかったため、28名の受講生のうち、回答してくれたのはわずか8名だった。最も大きな反省点である。

	昨年度評価				本年度評価			
	1	2	3	4	1	2	3	4
DP1A	4	7	1	0	5	3	0	0
DP1B	8	4	0	0	4	4	0	0
DP2A	0	3	5	4	0	7	1	0
DP2B	0	3	5	3	1	3	2	2
DP3A	4	8	0	0	2	5	1	0
DP3B	3	9	0	0	3	1	3	1
DP4A	3	8	1	0	2	6	0	0
DP4B	2	9	1	0	2	4	0	2
DP5A	1	9	2	0	1	4	0	3
DP5B	1	4	5	2	0	4	0	4

この授業に関わるDPは、DP1（知識・理解）であるから、それに関しては普通の評価が得られている。しかし昨年度まですまなかったDP3B「教育活動に取り組むための表現力」の

評価が低下している。DP5の「使命・責任感」、「対人関係形成」について、この授業は無関係だとする受講生が半数近くいたのは仕方のない面もあるが、DP4B「理論と実践を結ぶ主体的学習」を無関係とした受講生が2名いたのはややショックであった。学生の話し合いは毎時間取るようにしたが、学生の主体的な学習にまったくなくなっていなかったのだと反省している。

### 3. 「授業時間外学習の促進」について

学生授業評価アンケートでは

	0	0.5	2	(時間)
授業外課題	3	4	1	
授業外自発	7		1	
	0		2	(冊)
自発読書	7		1	

以上の通りで、自発的活動は8名全員0だった。毎回授業終了時に記入してもらったコメントを読むかぎり、興味関心が高まっていることを感じていた。また次までにやってくる課題も何度か出し、最終課題（教場試験の問題のうちの2つ）については、早い段階から提示していたが、平均を取ると30分になってしまった。興味関心を授業時間外学習や発展的な学習・読書につなげるには、さらに具体的な指示や参考書の紹介などを行う必要があると感じた。日本語の面白さを小学生に伝える活動をやってみたいと思ってくれる授業を次年度の目標にしたい。

### 4. 総括

今年の授業には留学生が4名受講した。うち2名は法文学部の聴講生だったが、この2名の授業への反応、最終試験の出来はずばらしかった。杜さんは試験の答案に「こんな問題を考えたことがない。たくさん考えたことを考えて、これこそ「勉強する」ということだ。この授業を受けられて本当によかった」と書いてくれた。うれしかったと同時に、文学部的な授業をしてしまっているのかとも思った。日本語の特質を語る教員を養成したい。課題は多く残った。